

# Asia Indicators

発表日: 2025 年 10 月 17 日(金)

インド・9月インフレは約8年ぶりの低水準に(Asia Weekly(10/13~10/17))

～インフレ率は+1.54%に鈍化する一方、コアインフレ率は+4.48%に加速と対照的な動きをみせる～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/13(月)	(中国)9月輸出(前年比)	+8.3%	+6.0%	+4.4%
	9月輸入(前年比)	+7.4%	+1.5%	+1.3%
	(インド)9月消費者物価(前年比)	+1.54%	+1.70%	+2.07%
10/14(火)	(シンガポール)7-9月GDP(前年比・速報値)	+2.9%	+1.9%	+4.5%
10/15(水)	(中国)9月消費者物価(前年比)	▲0.3%	▲0.2%	▲0.4%
	9月生産者物価(前年比)	▲2.3%	▲2.3%	▲2.9%
	(フィリピン)8月海外送金(前年比)	+3.2%	--	+3.0%
	(インド)9月輸出(前年比)	+6.7%	--	+6.7%
	9月輸入(前年比)	+16.7%	--	▲10.1%
10/16(木)	(オーストラリア)9月失業率(季調済)	4.5%	4.3%	4.3%
10/17(金)	(韓国)9月失業率(季調済)	2.5%	--	2.6%
	(シンガポール)9月非石油輸出(前年比)	+6.9%	▲2.1%	▲11.5%
	(マレーシア)7-9月実質GDP(前年比・速報値)	+5.2%	--	+4.4%
	9月輸出(前年比)	+12.2%	+3.4%	+1.7%
	9月輸入(前年比)	+7.3%	+2.1%	▲5.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [インド]～生活必需品の物価下落で9月インフレ率は約8年ぶりの低水準も、コアインフレ率はわずかに加速～

13日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.54%となり、前月(同+2.07%)から鈍化して2ヶ月ぶりにRBI(インド準備銀行)が定めるインフレ目標(4±2%)の下限を下回るとともに、約8年ぶりの低い伸びとなっている。前月比も+0.10%と前月(同+0.46%)から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格の調整を反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かるとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.48%となり、前月(同+4.11%)から加速しており、インフレ目標の中央値を上回る伸びが続いている。前月比も+0.60%と前月(同+0.36%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる一方、金融市場における通貨ルピー安を受けて輸入物価が押し上げられている。結果、一部の財価格に上昇圧力がくすぶるとともに、サービス物価で上昇基調を強める動きがみられ、表面的

なインフレ鈍化と対照的にインフレ圧力がくすぶっている様子が見えてくる。

15日に発表された9月の輸出額は前年同月比+6.7%となり、前月（同+6.7%）と同じ伸びで推移している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、機械製品関連や石油製品の輸出が堅調な推移をみせているほか、金や宝石関連の輸出も底堅い動きをみせるなど、幅広く輸出が押し上げられている。一方の輸入額は前年同月比+16.7%となり、前月（同▲10.1%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じたことと試算されるなど、一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れしている。財別では、原油関連の輸入が堅調な推移をみせているほか、機械製品などの輸入も拡大するとともに、金の輸入額が大きく上振れしていることも輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は▲321.50億ドルと前月（▲264.90億ドル）から赤字幅が拡大している。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 IN 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]~内・外需双方で堅調な動きが続き、7-9月 GDP(速報値)は前年比+5.2%に伸びが加速~

17日に発表された7-9月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+5.2%となり、前期（同+4.4%）から伸びが加速している。前期比年率ベースの成長率は+10.17%と3四半期連続のプラス成長となるとともに、前期（同+8.77%）から加速するなど足元の景気は底入れの動きを強めている様子が見えてくる。分野ごとの生産動向は、インフレ鈍化や中銀の利下げ実施を受けて個人消費など内需が堅調に推移するなかでサービス業は拡大が続いているほか、公共投資の進捗も追い風に建設業の生産は旺盛な動きをみせるとともに、トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みを受けて製造業や鉱業の生産も拡大が続いている。一方、農林漁業関連の生産は前期に大きく拡大した反動に加え、異常気象の頻発も影響して下振れしており、需給ひっ迫による食料インフレを招く可能性に要注意である。

また、同日に発表された9月の輸出額は前年同月比+12.2%となり、前月（同+1.7%）から伸びが加速している。前月比も+2.3%と前月（同▲6.3%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な動きをみせている。種類別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品や電気機械、輸送用機械など製造業に関連する輸出が堅調な動きをみせているほか、パーム油など農産品関連の輸出にも底堅さがみられる。国・地域別では、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの反動が出た米国向けは底入れするとともに、中国向けにも底堅さがうかがえる。一方の輸入額は前年同月比+7.3%となり、前月（同▲5.9%）から2ヶ月ぶりに

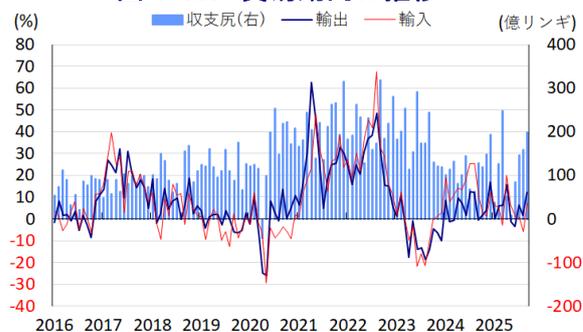
前年を上回る伸びに転じている。前月比も+7.8%と前月（同▲7.5%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているが、中期的な基調は拡大傾向に転じるなど底入れの動きをみせている。輸出の堅調さを反映して素材、部材関連の輸入が拡大しているほか、中国からの輸入が大幅に拡大する動きが確認されるなど、中国による『デフレの輸出』の余波を受ける動きがみられる。結果、貿易収支は+198.57億リングと前月（+158.50億リング）から黒字幅が拡大している。

図3 MY 実質GDP(季調値)と成長率(前年比)の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図4 MY 貿易動向の推移

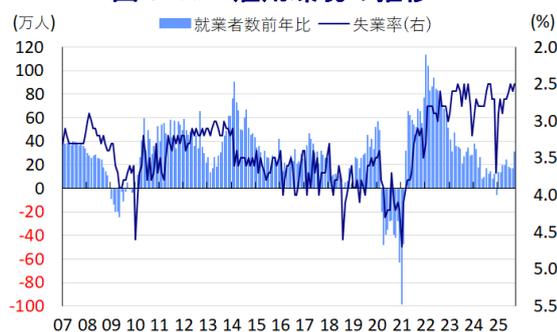


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [韓国]～失業率は低下、労働参加率も上昇の一方、非労働人口の大幅減など労働市場からの退出は加速～

17日に発表された9月の失業率（季調済）は2.5%となり、前月（2.6%）から0.1pt改善している。失業者数は前月比▲0.7万人と前月（同+1.1万人）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化する動きをみせている。一方の雇用者数は前月比+18.1万人と前月（同+0.8万人）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めている。雇用形態別でも、非正規雇用を中心に拡大の動きを強めるとともに、正規雇用も拡大するなどすそ野広く雇用が拡大している様子うかがえる。なお、雇用環境の堅調さを受けて労働力人口は前月比+1.7万人と前月（同+0.2万人）から2ヶ月連続で拡大しており、労働参加率も64.8%と前月（64.4%）から0.4pt上昇している。ただし、非労働力人口は前月比▲15.6万人と大幅に減少しており、労働市場からの退出の動きが加速している様子もうかがえるなど、雇用環境を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあると捉えられる。

図5 KR 雇用環境の推移



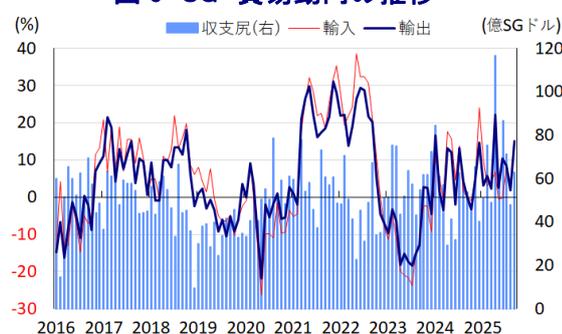
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みは一巡するも、輸出に底堅さがうかがえる～

17日に発表された9月の非石油輸出額は前年同月比+6.9%となり、前月（同▲11.5%）から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+13.01%と前月（同▲9.10%）から3ヶ月ぶりの拡大

に転じるなど頭打ちが続いた流れに変化の兆しうかがえるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。主力の輸出財である電動バルブをはじめとする電気製品関連や、半導体をはじめとする電子部品関連は堅調に推移しているほか、医薬品をはじめとする化学製品関連も底堅い動きをみせており、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込み一巡した後にもかかわらず堅調な動きをみせている。原油関連を合わせた総輸出額も前年同月比+15.0%と前月（同 1.8%）から伸びが加速しており、前月比も+5.7%と前月（同▲5.8%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+14.8%となり、前月（同+4.0%）から伸びが加速している。前月比も+4.4%と前月（同▲4.0%）から2ヶ月ぶりに拡大に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な動きをみせている。輸出の底堅さを受けて機械製品関連のほか、素材、部材関連の輸入が押し上げられる動きもみられる。結果、貿易収支は+62.93億SGドルと前月（+47.99億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図6 SG 貿易動向の推移

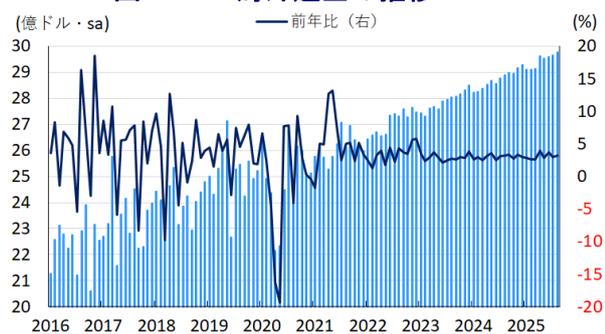


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～移民送金は米国など先進国からの流入が鈍化も、新興国からの旺盛な流入がその影響を相殺～

15日に発表された8月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+3.2%となり、前月（同+3.0%）からわずかに伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。また、金融市場においては通貨ペソの対ドル相場が調整の動きを強めており、ペソ建て換算値を押し上げていることも重なり個人消費をはじめとする内需を押し上げることが期待される。全体の4割を占める米国からの流入は、米国の雇用環境に変調の兆しが出ていることを反映して頭打ちしているものの、中東からの流入が旺盛な推移をみせているほか、アジア新興国などからの流入も底堅い動きをみせており、米国をはじめとする先進国からの流入鈍化の影響を相殺している。

図7 PH 海外送金の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成, 季節調整値は当社試算

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。